

2010年2月26日

各位

株式会社イオンファンタジー  
代表取締役社長 中下 善昭  
(コード番号 4343 東証一部)  
取締役経理本部長 井上 義信  
(電話 043-212-6203)  
当社の親会社 イオン株式会社  
取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
(コード番号 8267 東証一部)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成22年2月期の通期業績予想につきまして、最近の業績動向を踏まえ平成21年12月24日付当社「2010年2月期第3四半期決算短信(非連結)」にて発表いたしました業績予想を、下記の通り修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 2010年2月期通期業績予想の修正(2009年2月21日~2010年2月20日) (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	46,780	3,680	3,750	1,950	107円57銭
今回修正予想(B)	43,690	2,600	2,440	1,190	65円64銭
増減額(B-A)	△3,090	△1,080	△1,310	△760	
増減率(%)	△6.6	△29.3	△34.9	△39.0	
(ご参考)前年同期実績	48,069	3,625	3,709	1,935	106円79銭

2. 修正の理由

当期は、第2四半期累計期間まで売上高において、対前年比5.3%減と厳しい状況ではありましたが、3歳から7歳までのキッズ部門の強化を目的とした部門構造改革による荒利ミックスの改善や販管費圧縮の結果、営業利益において対前年比17.8%増となりました。

しかしながら第3四半期に入り、新型インフルエンザの流行拡大により、キッズ部門の集客が大きく落ち込み、第3四半期会計期間の売上高は対前年比15.0%減となりました。

新型インフルエンザの影響は概ね11月度で底打ちしましたが、年間最大の商戦月度となる1月度まで影響が続き、1月度の売上高は正月休みの減少もあり、計画以上に前年を下回りました。その結果、荒利益高の落ち込みをコスト削減でカバーするに至らず、業績予想を下回る見通しとなりました。

今後については、“遊びを通じた子供たちの健全な育成”を当社の事業ドメインと定め、実験で大きな成果をあげた“創育事業”の展開の核となる“スキッズガーデン”を一気に既存店に拡大いたします。また、中国直営事業は1号店が年間黒字となったことを鑑み、外部ディベロッパーへの出店も視野に多店舗化を進めてまいります。

※上記記載の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上